保健会館クリニックの 医師がお答えします!

第5回 下部内視鏡検査

罹患数や死亡数が増加している大腸がん。
部位別のがん死亡数では女性で1位、男性で3位を占めるに至っています。
しかし、大腸がんは早期であれば完治可能といわれる病気。
つまり大腸がん検診でがんを早期に発見し、治療につなげることが大切です。
今号では大腸がん検診として行われる下部内視鏡検査について、本会消化器診断部長の川崎成郎医師が解説します。

［執筆者］
川崎 成郎
かわさき なるお
東京都予防医学協会 消化器診断部長
1994年東京慈恵会医科大学医学部卒業、同大学外科学講座に入局。国際医療福祉大学病院外科准教授、町田市民病院外科担当部長を経て、2018年10月本会消化器診断部長に就任。日本外科学会学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医。

Q1 下部内視鏡検査はどのような検査ですか?

肛門から内視鏡を挿入し、直腸から盲腸まで大腸の内側の状態を観察する検査です(図1)。この検査ではポリープやがん、出血、腸炎などの有無を鮮明に確認することができます。詳しく調べる必要がある病変が見つかった場合には、内視鏡の脇から鉗子を挿入して組織を採取します(図2)。そうして採取した組織を顕微鏡で調べることで、治療が必要かどうかを判断します。

Q2 便潜血検査で陽性と言われましたが、痔からの出血があります。こういう場合は内視鏡検査を受けなくて大丈夫でしょうか?

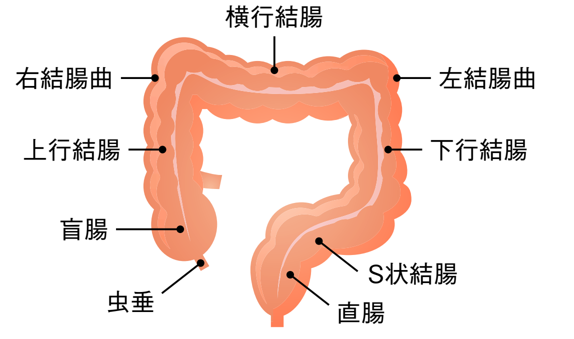
便潜血検査は、大腸などの消化管から出血した微量の血液を検出する検査です。負担も少なく簡単に受けられ、死亡率減少効果が認められていることから、大腸がん検診の1次検査として推奨されている検査法です。

この検査で陽性だった場合は、必ず内視鏡検査を受ける必要があります。便潜血の原因が痔だけであるとは断定できません。大腸にポリープなどの病変が存在する可能性があります。

便潜血陽性となったのに精密検査を受けない理由としては、①自覚症状がないから②以前から痔があるから③便潜血検査をもう一度受けたら陰性だったから④便潜血検査で2回のうち陽性は1回だけだったから⑤以前の内視鏡検査で異常がなかったから――などがよくみられます。

便潜血検査で陽性と言われた場合は、速やかに内視鏡検査で病気の有無を確認することが必要です。また腹部の痛みや違和感がみられる時は、便潜血が陰性であっても内視鏡検査を受けることをおすすめします。

図1 大腸の構造



Q3 実際の内視鏡検査の流れを教えてください。

下部内視鏡検査を円滑に行うためには大腸内に残渣が残っていないことが大切です。そのため、検査の数日前から海藻類(ワカメ、海苔、ひじきなど)や繊維の多い食材(ゴボウ、サツマイモ、山菜など)、種の多い野菜や果物の摂取を避けていただきます。また、普段から便秘気味の場合は下剤を服用していただくことがあります。

検査前日は19時頃までに夕食を済ませていただきます。夕食後の水やお茶の摂取は可能で、摂取する量に制限はありません。

検査当日は下剤を服用していただき、大腸の内部に便が残らないようにします。2時間から3時間かけて数回の排便がみられ、検査が可能な状態になるのを待ちます。排便が透明で残渣がなくなった時点で検査が可能になります。

検査を楽に進めるため、希望される方には鎮静剤を使用して軽く眠ったような状態で肛門から内視鏡を挿入します。大腸内にポリープや炎症などがあれば、切除(ポリペクトミー)や一部の組織を採取(生検)します。

検査にかかる時間は15分から30分程度です。検査終了後は少し休んでいただき、その後に結果を説明して終了となります。

図2 内視鏡の外観と鉗子孔

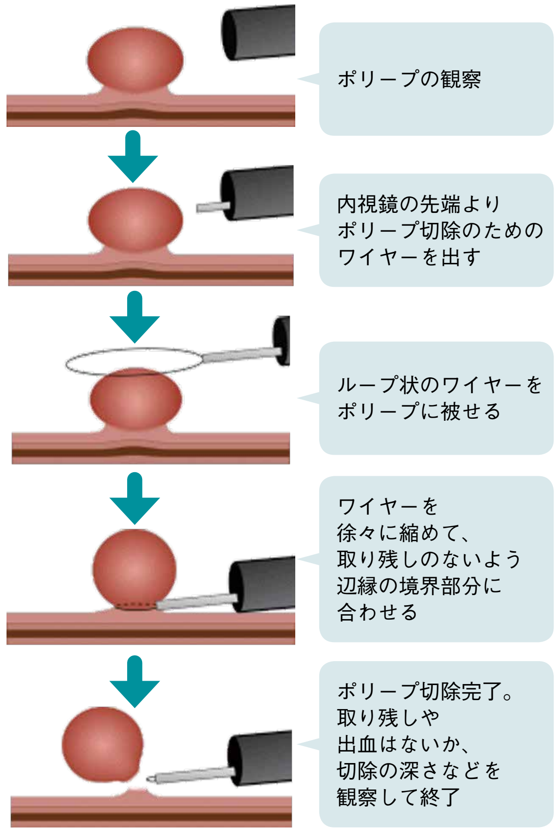
Q4 ポリープなどが見つかった場合はどうするのですか?

ポリープが見つかったら、それが放置してよいものか、治療する必要があるものかを判断します。これには青い色素を病変に散布して内視鏡で観察する「色素内視鏡検査」や、表面の構造がわかりやすくなる特殊な光を当てて観察する方法が用いられることがあります。

治療が必要と判断された場合は、その病変が良性か、がんを含む病変(腺腫内がん)かを鑑別します。内視鏡で拡大観察することで、ある程度の鑑別はできますが、原則的には病変を内視鏡で切除し(図3)、その組織を顕微鏡で確認することで最終的な診断になります。

ほとんどの病変は内視鏡による治療のみで完了します。手術が必要と判断された場合には、外科手術による治療を行います。

図3 ポリープ切除の流れ



Q5 下部内視鏡検査はどのくらいの頻度で受ければよいですか?

初回の内視鏡検査で特に病気を指摘されなかった場合は、市区町村が行っている大腸がん検診を定期的に受診していただくことで、将来大腸がんになる可能性を減らすことができます。何らかの症状がある場合や定期的な検査を希望される場合は主治医と相談していただき、必要に応じて内視鏡検査を受けることをおすすめします。

初回の内視鏡検査でポリープやそれ以外の病気が指摘された場合は、病気や症状に応じた定期的な検査が必要になります。次の検査の時期については、主治医と相談して決めていくとよいでしょう。